

白鷗大学教育学部論集
2011, 5(2), 331–360

原著論文

「現代的なリズムのダンス」の学習意欲に関する研究 ～ 学習成果と学習動機および学習ストレスとの相関 ～

内山須美子¹・小倉 翔平²・根岸 義克³

Research Concerning the Desire to Learn “The Dance of Modern Rhythm”

～ The Correlation of Learning Results, Motivation and Stress ～

Sumiko Uchiyama・Syouhei Ogura・Yosikatu Negishi

Abstract

This research was aimed at examining what kind of influence motivation and stress have on one's desire to learn dance, paying particular attention to the desire of persons with no experience in learning “The Dance of Modern Rhythm” as introduced in new guidelines to learn this dance. As a result of analysis, the following five points were obtained as conclusions.

1. Results of skill tests were correlated to the depth of one's detailed motivation to become involved. Raising the depth of one's desire to learn and one's desire to learn and the amount of stress while learning do not correlate with achievements on skill tests.

¹ 白鷗大学教育学部：Hakuoh University, Faculty of Education

² 館林市立第一小学校：Tatebayashi Civic Daiichi Elementary School

³ 羽生市立南小学校：Hanyuu Civic Minami Elementary School

2. Factors in raising one's desire to learn came from the contents of the dance lessons. Motivations that can be classified into two divisions of learning details, i.e., group relationships and utility, did not have a direct influence on one's desire to learn.
3. As shortening practical learning time reduces one's desire to learn in both boys and girls, it is necessary to secure enough time for practical skills when organizing a class.
4. In order to increase the desire to learn in girls, it is effective to present the possible effects of learning so that they can be understood.
5. In boys, exercises in which it is difficult to be motivated, as well as bad behavior by other persons, decrease their desire to learn, so it is necessary to take into consideration the introduction of topics and the structure of groups.

The results of this research can be used to develop basic materials for creating dance lessons in the future that focus on learners' motivation, as well as offer valuable suggestions in actual dance instruction, when developing co-ed dance classes.

1. 緒言

ダンスが必修科目となる中、ダンス授業も変容を余儀なくされている。ダンスの実施率は年々増加してきており、中学校教員を対象として行ったある調査では、「新学習指導要領実施後には、6割強の学校から男子にダンスの授業を行う計画がある…男子クラスは男性教員が担当する傾向にある」¹³⁾ ことが指摘されている。しかし、「多くの教員がダンス指導法や指導力養成の必要性を感じていたが、教員のダンス指導研修・教材研究は進んでいない」のが現状である¹³⁾ (pp. 472-485.)。そのような状況において、「現

代的なリズムのダンスはより多くの生徒から楽しいと評価されていた」¹¹⁾ (pp. 65-70.) ことや、ダンス授業での「採択ダンス種目は現代的なリズムのダンスが最も多い」¹³⁾ (pp. 472-485.) ことから、導入されて日の浅い「現代的なリズムのダンス」には、今後十分な研究が待たれるところである。

これまでに「現代的なリズムのダンス」を対象とした研究としては、内山らの研究^{17) 18) 19) 20)} が挙げられる。しかし、この研究では、個々の学習者の経歴に差があることが予想されるにもかかわらず、学習者全体を分けることなく内発的な動機づけとしてのフロー調査を行い、「現代的なリズムのダンス」の授業の楽しさは、「目標の明確さ」と「技能の獲得」にあると結論付けるにとどまっている。経験の有無や経験年数など、ダンスの学習意欲は、学習動機以外の要素が大きく関与していることが予想されるので、そのことを考慮して調査されなければならない。また、ダンスの楽しさに関するこれまでの調査^{1) 2) 3) 5) 6) 9) 11)} は、「創作ダンス」を対象としたものである。重ねて同調査は、女子のみを対象としたものが多い。他方、畑野、内山らの調査は「男女」を調査対象としているものの、性差の精密な検討をするまでには至っていない。先に、中村が述べていたように、今後、男子のダンス授業が増えてくることを考えれば、ダンス授業の動機づけに関する性別における差異を考察することも必要である。また、「ダンスの楽しさは自己表現による踊る楽しさの他、創意工夫や主体的活動の楽しさ、仲間との協力、交流、発表での賞賛、共感、達成感などの楽しさがある」¹¹⁾、という言明に特徴づけられるように、そこにはダンスの楽しさの本質的契機と属性とが混在してしまっているという問題がある。更に、それが「授業」である限り、内発的な動機づけとしての「楽しさ」だけを調査しても片手おちであることは否めない。外発的な動機づけも含めた学習動機全体注¹⁾を調査するとともに、受講者のストレスにも目を向け、ダンス授業のストレスが学習意欲に与える影響、また、学習成果との関連も看過されてはならない重要な問題である。

以上のことから、本研究では、「現代的なリズムのダンス」の学習経験が

ない者の学習意欲に着目し、どのような学習動機およびストレスがダンスの学習意欲に影響を与え、また、それらは学習成果とはどのように結びついているのかを検討することを目的とした。

本研究での成果は、今後、男女共修のダンス授業を展開する上で、学習者が意欲的に取り組む授業づくりのための貴重な示唆を提供することになるであろう。

2. 研究の方法

2-1. 調査方法

(1) 調査対象

平成22年度H大学教育学部「ダンスⅠ」受講生105名の中から、「現代的なリズムのダンス」の学習経験のない受講生96名に対して調査を行った。授業以外（部活動・スタジオレッスン）のダンス経験者も対象から除外した。

(2) 調査内容

①学習意欲調査

「あなたの現在のダンス学習意欲はどの程度ですか」という教示文に対し、「0%」から「100%」までの6段階で回答を求めた。

②学習動機調査

市川の学習動機調査票⁷⁾をダンス学習用に若干の変更を加えて用いた。教示文は「あなたの学習動機についてお尋ねします。次の12の文章それぞれは、現在のあなたの考えにどの程度当てはまりますか」というものである。回答は「全く当てはまらない」から「とてもよく当てはまる」の5件法により求めた。

③ストレス調査

佐々木の体育授業ストレス調査票¹⁶⁾をダンス学習用に若干の変更を加

えて用いた。教示文は「ダンス学習に対するあなたのストレスについてお尋ねします。次の42の文章それぞれは、現在のあなたの考えにどの程度当てはまりますか」というものである。回答は「全く当てはまらない」から「とてもよく当てはまる」の5件法により求めた。

④実技テスト

3回の授業終了後、実技テストを行い担当教員（ダンス指導歴23年）が5点満点で評価した。

（3）調査期日：

平成22年4月25日：学習意欲調査・学習動機調査

6月1日：学習意欲調査・ストレス調査

6月8日：実技テスト

（4）調査授業：平成22年度「ダンスⅠ」全15回の授業のうちの第2回目、第3回目、第4回目授業である。授業の内容は次の通りである。

- ① 授業の単元計画（資料1参照）
- ② モデル授業の構成（資料2参照）
- ③ モデル授業で使用した運動内容（資料3参照）

（5）結果の処理：データー処理はSPSS19およびAmos19を用いて行った。

2-2. 解析方法

調査データに対して次の手順で解析を行った。

- （1）学習意欲調査に対しては、「0%」を1点、「100%」を6点として、6段階の選択肢を得点に変換し、各項目、調査日ごとに平均と分散を求める。
- （2）学習動機調査およびストレス調査に対しては、「非常にあてはまる」を5点、「全くあてはまらない」を1点として、5段階の選択肢を得点

に変換し、各項目ごとに平均と分散を求める。

- (3) 下位尺度の内的整合性を検討し、学習動機、学習ストレスそれぞれの尺度得点を算出する。
- (4) 学習成果と学習意欲、学習動機、学習ストレスとの相関を検証すると共に、その影響を検討する。
- (5) 学習動機、ストレスそれぞれの下位尺度は、学習意欲にどのように影響するのかを検討する。

3. 結果と考察

3-1. 学習意欲、学習動機、学習ストレスと学習成果

(1) 学習意欲、学習動機、学習ストレスと学習成果の相関

実技テストの平均値は3.94、SDは0.88であった。男女差の検定を行ったところ、有意な差が見られ ($t(61)=2.03$, $p<.05$)、女子の得点 ($M 4.17$, $SD 0.69$) が男子の得点 ($M 3.74$, $SD 0.98$) を上回った。

表1は、ダンス授業前後の学習意欲の平均と標準偏差を示したものである。この表より、全被検者の学習意欲は、授業受講後に1.21増加していたことが窺える。また、授業受講前後の相関係数は、 $r=.55$ ($p<.001$) であった。授業受講前後の平均点の差を t 検定によって検討したところ、有意な差がみられた ($t(19)=6.16$, $p<.001$)。このことは、今回のダンスの授業が、受講者の学習意欲を上げるのに有効であったことを示唆している。

表1 ダンス授業受講前後の学習意欲の平均と標準偏差

(n=96)				
学習意欲	前		後	
	<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>
	4.00	1.22	5.21	0.72

ダンス学習後の学習意欲の得点の平均値を算出することで、学習意欲得点（以下、「意欲」と略す）とした（ $M 5.21$ 、 $SD 0.72$ ）。男女差の検定を行ったところ、有意な差は見られなかった（ $t(92)=1.52$ 、 $n.s.$ ）。学習意欲と実技テストの平均値との関連を検討するために相関係数を算出したところ、値は低いが有意な相関がみられた（ $r=.26$ 、 $p<.05$ ）。

更に、学習後の意欲から学習前の意欲の点数を引いたものを算出することで、学習意欲向上得点とした（ $M 1.21$ 、 $SD 1.02$ ）。男女差の検定を行ったところ、有意な差が見られ（ $t(91)=2.48$ 、 $p<.05$ ）、男子の得点（ $M 1.40$ 、 $SD 1.01$ ）が女子の得点（ $M 0.92$ 、 $SD 0.80$ ）を上回った。実技テストの平均値との関連を検討するために相関係数を算出したところ、有意な相関は見られなかった（ $r=.10$ 、 $n.s.$ ）。したがって、ダンス学習後の学習意欲の高さは実技テストの成績に関連するが、学習意欲の伸びは実技テストの成績に関連しないことが示唆された。

表2 学習動機の項目別平均と標準偏差

(n=96)

再分類番号	項目番号	項 目	M	SD
1	内容分離的動機	1 友達が受けると言ったから	2.65	1.20
		3 友達に負けたくないから	2.61	1.13
		4 単位がもらえるから	2.45	1.19
		8 この授業を取れば資格の取得に繋がるから	4.15	1.08
		9 周りの人に認めてもらいたいから	2.44	1.17
		10 自分だけ踊れるようにならないのは悔しいから	2.82	1.17
2	内容関与的動機	2 新しいことができるようになるのは楽しいから	4.15	0.84
		5 このダンスの授業が将来役に立つと思うから	3.44	1.04
		6 リズムに乗って体を動かすことは体に良いから	3.52	1.04
		7 体を鈍らせないようにするため	3.50	1.13
		11 音を体で表現する喜びを味わいたいから	3.84	1.01
		12 踊りたくてしかたないから	3.30	1.18

表2は、学習動機12項目の平均値、標準偏差を算出したものである。天井効果がみられた1項目を分析から除外した上で、ダンス学習の内容に関する尺度の平均点を算出し、内容関与的動機得点とした ($M\ 3.62, SD\ 0.72$)。実技テストの平均値との関連を検討するために相関係数を算出したところ、中程度の有意な相関がみられた ($r=.40, p<.001$)。

一方、ダンス学習内容とは分離した尺度の項目の平均点を算出することで、内容分離的動機得点とした ($M\ 2.59, SD\ 0.84$)。実技テストの平均値との関連を検討するために相関係数を算出したところ、有意な相関はみられなかった ($r=.08, n.s.$)。したがって、内容関与的動機づけの高さは実技テストの成績に関連するが、内容分離的動機づけの高さは実技テストの成績に関連しないことが示唆された。また、男女差の検定を行ったところ、内容関与的動機、内容分離的動機何れにおいても有意な差は見られなかった。

ダンス授業のストレス尺度の項目合計点を算出することで、ストレス得点とした (平均113.77、 $SD\ 22.72$)。表3は、その結果を示したものである。実技テストの平均値とストレス得点の関連を検討するために相関係数を算出したところ、有意な相関はみられなかった ($r=.18, n.s.$)。したがって、ストレスの高さと実技テストの成績は関連しないことが示唆された。

表3 ダンス学習ストレスの平均と標準偏差

学習ストレス	(n=96)	
	M	SD
	113.77	22.72

以上のことから、実技テストの成績、つまり学習成果と関連するのは、学習意欲の高さと内容関与的動機づけの高さであり、学習意欲の伸び、内容的分離動機、学習ストレスは関係しないことが示された。

(2) 学習意欲、学習動機および学習ストレスの学習成果への影響

そこで、学習意欲、学習意欲の伸び、学習動機、学習ストレスの得点が、学習成果に与える影響を検討するために、重回帰分析を行った。表4は、その結果を示したものである。その結果、内容関与的動機から学習成果に対する標準偏回帰係数が有意であった。学習意欲、学習意欲の伸び、内容分離的動機、学習ストレスから学習成果に対する標準偏回帰係数は有意ではなかった。

表4 重回帰分析結果：男女込み

	(n=96)
	男女
	β
学習意欲	.14
学習意欲の伸び	.13
内容関与的動機	.30 *
内容分離的動機	-.09
学習ストレス	-.08
R^2	.39 *

* $p < .05$ β 標準偏回帰係数

そもそも、学習意欲は学習の原動力であり、学習しようという欲求とそれを最後まで実現しようとする意志である。新指導要領では、学習の評価においても「関心・意欲・態度」の観点が重視され、自己教育力の育成の立場から改めて学習意欲が強調されるようになったが、この結果からは、ダンスの学習内容に動機づけられていることが実技テストの成績に関連することが窺える。内容関与的動機づけの高い学習者は、「やっていること自体に楽しさや意義を感じて…学習内容自体を重要視しそれを身につけたい、向上したいと考えるので学習の仕方も当然深まる」⁷⁾ (p. 60) ため、おのずと技能の獲得に影響すると考えられる。授業の成果としては、当然「学習意欲や態度」と共に「技能の獲得」も目指さなければならないので、ダンスの授業を行う教師は、学習者の気持ちがダンスの内容に向いて行くように準備をし働きかける必要があると言えるだろう。

3-2. 学習意欲と学習動機

(1) 学習動機の分析

学習動機12項目から、天井効果がみられた1項目を以降の分析から除外し、残りの11項目に対して主因子法による因子分析を行った。固有値の变化(4.09, 1.81, 1.53, 0.89, 0.63…)と因子の解釈可能性を考慮すると、3因子構造が妥当であると考えられた。そこで、再度3因子を仮定して主因子法・プロマックス回転による分析を行った。

その結果、十分な因子負荷量を示さなかった1項目を分析から除外して、残り10項目に対して再度主因子法・プロマックス回転による因子分析を行った。表5は、プロマックス回転後の最終的な因子パターンと因子間相関を示したものである。なお、回転前の3因子で10項目の全分散を説明する割合は63.00%であった。

表5 ダンス学習動機の因子分析結果：プロマックス回転後の因子パターン

(n=96)				
項目内容	I	II	III	
(11) 音を体で表現する喜びを味わいたいから	.97	-.13	-.06	
(12) 踊りたくてしかたないから	.76	.10	.00	
(2) 新しいことができるようになるのは楽しいから	.53	-.09	.16	
(3) 友達に負けたくないから	.10	.77	.05	
(4) 単位がもらえるから	-.22	.76	.00	
(9) 周りの人に認めてもらいたいから	.26	.65	.00	
(1) 友達を受けると言ったから	-.08	.45	-.13	
(7) 体を鈍らせないようにするため	-.07	.05	.82	
(6) リズムに乗って体を動かすことは体に良いから	.19	-.10	.59	
(5) このダンスの授業が将来役に立つと思うから	.01	-.08	.45	
因子相関行列				
I	—	.36	.61	
II		—	.44	
III			—	

第1因子は3項目から構成されており、ダンス独自の楽しさや新しいことを学ぶ楽しさを表す項目が高い負荷量を示していた。そこで「学習（ダンス）内容」因子と命名した。

第2因子は4項目から構成されており、「友達が受けると言ったから」、「友達に負けたくないから」、「周りの人に認めてもらいたいから」といった「仲間関係」を表す項目が高い負荷量を示していた。そこで「仲間関係」因子と命名した。

第3因子は3項目から構成されており、体を動かすことの利益、将来役立つなど実利性を表す項目が高い負荷量を示していた。そこで「実利」因子と命名した。

（2）学習意欲との相関

前述の学習動機の因子分析において、各因子に高い負荷量を示した項目の平均値を算出することにより、「学習(ダンス)内容」得点（平均3.76、SD 0.83）、「仲間関係」得点（平均2.53、SD 0.87）、「実利」得点（平均3.49、SD 0.82）とした。内的整合性を検討するために α 係数を算出したところ、学習（ダンス）内容で $\alpha = .79$ 、仲間関係で $\alpha = .74$ 、実利で $\alpha = .74$ とほぼ十分な値が得られた。男女差を検討したところ、何れの得点においても有意な差は見られなかった。

表6は、学習意欲と学習動機の男女込みの相互相関を、表7は、男女別の相互相関をそれぞれ示したものである。これらの表より、男女込みでは、意欲と学習（ダンス）内容の間に中程度の正の有意な相関、ダンス内容と仲間関係の間に弱い正の有意な相関、学習（ダンス）内容と実利の間に中程度の正の有意な相関、仲間関係と実利の間に弱い正の有意な相関がみられた。しかし、男女別の相関を見ると、男女で相関のパターンがやや異なっており、意欲と学習（ダンス）内容の間に中程度の正の有意な相関、学習（ダンス）内容と仲間関係の間に弱い正の有意な相関、実利と学習（ダンス）内容の間に中程度の正の相関は、両者ともにみられたものの、実利と

仲間関係との間が女子ではほぼ無相関であった。また、女子のみ、学習意欲と実利の間に中程度の正の有意な相関がみられた。

表6 学習意欲と学習動機の相互相関：男女込み

					(n=96)	
	ダンス内容	仲間関係	実利	学習意欲	M	SD
ダンス内容	—	.27 **	.43 **	.43 **	3.76	0.83
仲間関係		—	.21 *	-.08	2.53	0.87
実利			—	.25 *	3.49	0.82

* $p < .05$ ** $p < .01$

表7 学習意欲と学習動機の相互相関：男女別

					(n=96)	
	ダンス内容	仲間関係	実利	学習意欲		
ダンス内容	—	.29 *	.33 *	.36 **		
仲間関係	.36 *	—	.32 *	-.08		
実利	.55 **	.14	—	.09		
学習意欲	.52 **	.01	.44 **	—		

* $p < .05$ ** $p < .01$

右上：男子 左下：女子

(3) 学習意欲への影響

学習動機の3つの下位尺度得点が、学習意欲に与える影響を検討するために、重回帰分析を行った。表8、表9は結果を示したものである。また、重回帰分析に基づくパス図を図1、2に示す。なお、図1、2には、学習動機調査票の下位尺度間相関も示してある。

表 8 男女込みの重回帰分析結果

	(n=96)
	男女
	β
ダンス内容	.45 ***
仲間関係	-.22 *
実利	.10
R^2	.41 ***

* $p < .05$ *** $p < .001$

β 標準偏回帰係数

表 9 男女別の重回帰分析結果

	(n=96)	
	男子	女子
	β	β
ダンス内容	.42 **	.48 *
仲間関係	-.21	-.20
実利	.02	.21
R^2	.35 **	.47 *

* $p < .05$ ** $p < .01$

β 標準偏回帰係数

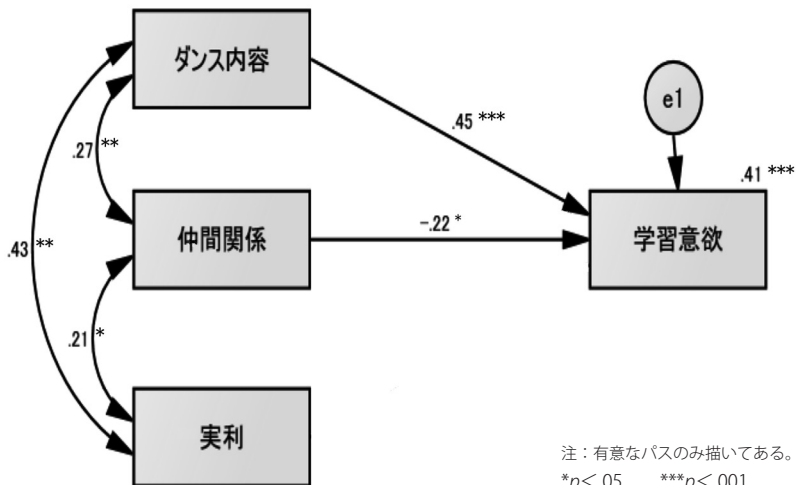


図 1 男女込みのパス解析結果

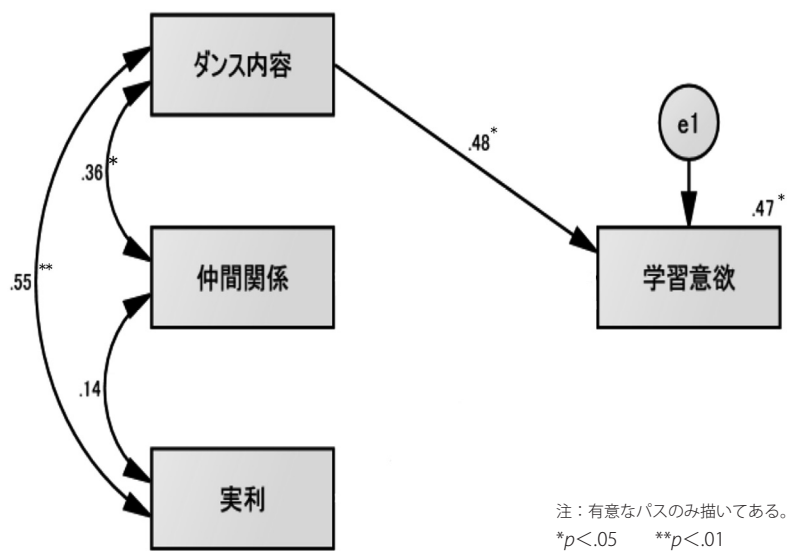


図2 男女別のパス解析結果：女子

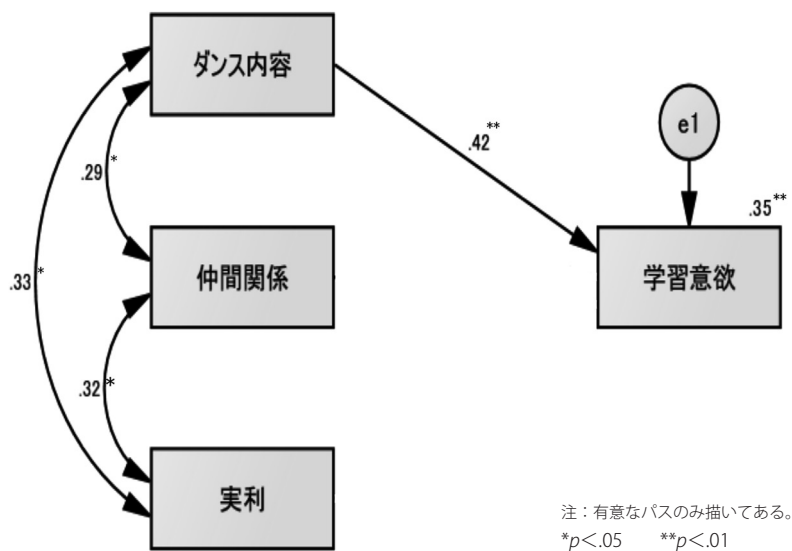


図2 男女別のパス解析結果：男子

男女込みの分析では、学習（ダンス）内容から学習意欲、仲間関係から学習意欲に対する標準偏回帰係数が有意であった。しかし、男女別の分析では、男女ともに、学習（ダンス）内容から学習意欲に対する標準偏回帰係数が有意であったが、仲間関係、実利から学習意欲に対する標準偏回帰係数は有意ではなかった。

この結果から、男女ともに学習（ダンス）内容そのものが強い動機づけになることがダンスの学習意欲を向上させることが窺えた。また、仲間関係や、実利的な動機づけは、学習意欲に直接的な影響を及ぼさないことも確認できた。これは、ハーズバーグの二要因理論から鑑みれば納得できる結果であろうと考えられる。人間関係や報酬は「衛生要因」であり、これを改善したからといって満足感や意欲の向上につながるわけではない。⁸⁾しかし、男女込みでは、仲間関係のあり方が学習意欲に何らかの影響を及ぼすことが推測されたことから、授業を施行する時には、グループ構成などに配慮し、少なくとも学習者の不満要因となる懸念を解消しておく必要はあるだろう。

相関係数と標準偏回帰係数の結果から、次のような知見が提示され得るであろう。まず、学習意欲を高めるためにはダンスの学習内容に目を向けさせるべきである。項目別に詳しく述べるなら、音を体で表現する喜びを味わえるような内容にし、被検者を踊りたくて仕方がないという境地まで導く工夫をすべきである。特に、学習内容が常に新鮮であり、新しい発見ができるような内容にすべきである。それは「新しいことができるようになるのは楽しいから」の項目別平均値（4.15）が顕著に高いことから言えることであるが、同時期に書かせた自由記述の感想からも言えることである。5割弱の被検者が「新しことを習う楽しさ」「知らないことを知ることの喜び」を挙げている。新規な体験や一回限りの体験は大変印象深い体験となりやすく、その結果高い得点が得られたと推察される。これまで、ダンスを喜びや感動の体験という視点から大別すると「踊る」「創る」「観る」の3つに大別されてきた。¹⁴⁾しかし、この結果は、この中に「習う」

という新しい視点を加えることを促しているのである。戦後に「創作ダンス」が導入されて以来、これまでダンス学習では、「既存の舞踊（ダンス）を習うことは創造性を疎外するので良くない」といった臆見が多々存在した。しかし、本研究によれば、その既存のダンスを新しく学ぶことに動機づけられた被検者は、如実に学習意欲を高めているのである。考えてみれば、踊るにしろ創るにしろ、それを可能にする技術体系を身につけていることが必要である。冒頭で述べたように、「現代的なリズムのダンスはより多くの生徒から楽しいと評価され」、ダンス授業での「採択ダンス種目は現代的なリズムのダンスが最も多い」のは、現代的なリズムのダンスには、継承され得る運動文化としての技術体系が存在するからであると推断される。なすべき目標が運動課題として明確な「現代的なリズムのダンス」は、既存の「運動技術」を学ぶ喜びといった内容関与的動機づけを可能にし、学習意欲を高める構造になっているのである。

また、女子のみ、学習意欲と実利の間に中程度の正の有意な相関がみられた。女子は、情緒的な喜びが意欲を高めるだけでなく、この学習が自分にとってどのような利益をもたらすのか、といったことを探索していることが推測できる、今回の調査対象者は教育学部の学生であるので、「将来、教師となってダンスの授業を持った時に役立てたい」あるいは「体のためになる」と考えているのであろう。この段階は、速水の動機づけ理論⁴⁾で言えば、内発的動機ではないものの、「同一化」の段階である。女子の方が、なぜこれをやるのかという理由を明確にする「認知面の働きが行動エネルギーに変換される傾向がある」ことが窺える。この点で男子と相違することは明白である。楽しいという情緒面だけでなく、認知的な動機づけが高まり、目標を達成するための具体的方法を工夫することで、行動が持続し目標に到達できる可能性が高い。このことから、認知的な動機づけが「実技テストの点数」が高いことと関係していると推察される。速水も述べるように、「成績を上げようとするならば、その教科の価値や興味を増大させることに気をつけるよりも、適切な期待やコンピテンスを認知させ

るように指導することが効果的」⁴⁾ (p.42) なのである。とすれば、教師として、学習者が納得できるダンスの学習効果を謳うことも女子にとっては効果的であることが示唆される。その一方で、筆者の別の調査^{18) 20)} では、男子の方がダンスにおけるフローポイントが高いことと関連させれば、「何の役に立つのか」ということを考えずに、授業において現代的なリズムのダンスを自己目的的に純粋に楽しんでいるのは、むしろ男子において顕著であると言えるであろう。また、本調査で「学習意欲向上得点」は、男子の方が有意に高かったことを重ねて考慮すると、情緒的な動機づけは、成績のような成果とは直接結びつかないが、意欲との間には相関があることが推測されるので、次の調査の課題としたい。

3-3. 学習意欲と学習ストレス

(1) 学習ストレスの分析

先ず、ダンス授業のストレス調査票46項目の平均値、標準偏差を算出した。表10は、その結果を示したものである。全46項目を以降の分析の対象とした。

表10 ダンス学習ストレスの項目別平均と標準偏差

(n=96)

再分類項目	項目番号	項 目	平均値	SD
1	1	自分が下手で思い通りに行かない時。	2.92	0.96
	4	出来ていたこと、出来ると思っていたことが出来なくなった時。	2.89	0.85
	8	結果がでない時。	2.82	0.92
	10	周りより自分が下手な時。	2.49	0.94
	18	みんなで踊る際に上手に出来ない時。	2.77	0.81
	21	周りが出来て自分だけ出来ない時。	2.91	0.90
	24	教えられたことが出来ない時。	2.75	0.83
	32	与えられた課題以上のことが出来ない時。	2.38	0.82
	34	思うように身体が動かない時。	2.63	0.88
	36	周りよりかっこよく出来ない時。	2.46	0.79

2	生理的不調	5	疲れている時。	2.37	0.84
		13	体がだるい時。	2.69	0.75
		19	暑い時。	2.58	0.92
		26	筋肉痛の時。	2.11	0.85
		31	寒い時。	2.18	0.93
		35	気分や具合が悪い時。	2.51	0.79
		43	眠い時。	2.28	0.88
3	動機づけ困難な運動課題	7	踊るのが恥ずかしい時。	2.25	0.83
		14	失敗をと思った時。	2.51	0.81
		15	つらいことをやる時。	2.28	0.72
		28	難しい動きをする時。	2.23	0.75
		39	難しい振りつけがある時。	2.20	0.77
		40	出来ないとかわっていることを行う時。	2.31	0.83
		45	嫌な動きや格好をする時。	2.28	0.74
4	教師の不適切な言動	9	先生の機嫌がころころ変わる時。	2.40	1.00
		30	先生がちよっとしたことで怒る時	2.37	0.96
		37	先生の教え方が乱雑な時。	2.31	0.88
		41	次にやるといったことをやらない時。	2.55	0.77
		44	冬に先生だけ暖かい格好をする時。	2.02	0.82
5	実技時間の短縮	3	踊る量が少ない時。	1.98	0.74
		11	実技の時間が短い時。	2.55	0.87
		17	説教されて授業がつぶれた時。	2.82	0.93
		22	見ている時間が長い時。	2.32	0.97
		25	説明が長い時。	2.37	0.93
6	他者のふまじめ	6	団体行動なのに自分勝手な人がいる時。	2.82	1.03
		12	先生がいない時にふざける人が出てきた時。	2.71	0.95
		20	グループを組む時、周りが不真面目、やる気がない時。	2.95	0.84
		46	みんながちゃんとやらずにふざけたり、だらだらしている時。	2.89	1.02
7	体育以外の不安	23	何かでイライラしている時。	2.48	0.87
		33	生活の中で嫌なことがあった時。	2.32	0.81
		38	悩みや心配ことがある時。	2.20	0.79
		42	スランプの時。	2.55	0.85
8	他者からの中傷	2	いじめられる時。	1.95	0.96
		16	友達に嫌みをいわれた時。	2.68	0.92
		27	自分の踊りを馬鹿にされた時。	2.51	0.83
		29	発表した際、称賛が少ない時。	2.22	0.78

(2) 学習意欲との相関

前述の学習ストレスの再分類された各因子の平均値を算出することにより、「効力感の欠如」得点（平均2.64、SD 0.60）、「生理的不調」得点（平均2.39、SD 0.62）、「動機づけ困難な運動課題」得点（平均1.93、SD 0.47）、「教師の不適切な言動」得点（平均2.29、SD 0.64）、「実技時間の短縮」得点（平均3.06、SD 0.74）、「他者のふまじめ」得点（平均2.84、SD 0.80）、「体育以外の不安」得点（平均2.33、SD 0.67）、「他者からの中傷」得点（平均2.38、SD 0.71）とした。内的整合性を検討するために α 係数を算出したところ、効力感の欠如で $\alpha = .88$ 、生理的な不調で $\alpha = .89$ 、動機づけ困難な運動課題で $\alpha = .89$ 、教師の不適切な言動で $\alpha = .88$ 、実技時間の短縮で $\alpha = .89$ 、他者のふまじめで $\alpha = .90$ 、体育以外の不安で $\alpha = .89$ 、他者からの中傷で $\alpha = .88$ と十分な値が得られた。男女差を検討したところ、「他者のふまじめ」得点で有意な差が見られ（ $t(63) = 2.60, p < .05$ ）、男子の得点（平均3.11、SD 0.73）が女子の得点（平均2.61、SD 0.79）を上回っていた。

表11は、学習意欲とストレスの男女込みの相互相関を、表12は、男女別の相互相関を、それぞれ示したものである。男女込みでは、意欲と課題の困難さの間に負の有意な相関、意欲と生理的不調の間に負の有意な相関がみられた。しかし、男女別の相関を見ると、男女で相関のパターンがやや異なっており、女子では、意欲と生理的不調、意欲と教師の言動の間に負の有意な相関が見られたが、男子では見られなかった。また、男子では、動機づけ困難な運動課題と実技時間の短縮の間に正の有意な相関がみられたが、女子ではほぼ無相関であった。

表11 学習意欲とストレスの相関：男女込み

(n=96)

	効力感の欠如	生理的な不調	動機づけ困難な運動課題	教師の不適切な言動	実技時間の短縮	他者のふまじめ	体育以外の不安	他者からの中傷	学習意欲	M	SD
効力感の欠如	—	.59**	.69**	.51**	.50**	.50**	.66**	.66**	-.29*	2.64	0.60
生理的な不調		—	.54**	.63**	.41**	.38**	.61**	.49**	-.32*	2.39	0.62
動機づけ困難な運動課題			—	.50**	.36**	.26**	.73**	.56**	-.33**	1.93	0.47
教師の不適切な言動				—	.62**	.57**	.60**	.67**	-.16	2.29	0.64
実技時間の短縮					—	.72**	.39**	.52**	.13	3.06	0.74
他者のふまじめ						—	.39**	.60**	-.10	2.84	0.80
体育以外の不安							—	.60**	-.25*	2.33	0.67
他者からの中傷								—	-.12	2.38	0.71
学習意欲									—	5.21	0.71

* $p < .05$ ** $p < .01$

表12 学習意欲とストレスの相関：男女別

(n=96)

	効力感の欠如	生理的な不調	動機づけ困難な運動課題	教師の不適切な言動	実技時間の短縮	他者のふまじめ	体育以外の不安	他者からの中傷	学習意欲
効力感の欠如	—	.67**	.70**	.59**	.61**	.42*	.69**	.67**	-.22
生理的な不調	.49**	—	.54**	.64**	.36*	.40*	.66**	.52**	-.28
動機づけ困難な運動課題	.67**	.57**	—	.54**	.42*	.13	.67**	.58**	-.32
教師の不適切な言動	.41*	.68**	.42*	—	.59**	.54**	.68**	.64**	-.12
実技時間の短縮	.34	.55**	.25	.61**	—	.78**	.47**	.67**	.12
他者のふまじめ	.64**	.46*	.42*	.55**	.59**	—	.32	.52*	-.06
体育以外の不安	.60**	.58**	.81**	.50**	.26	.45*	—	.61**	-.20
他者からの中傷	.64**	.52**	.53**	.67**	.26	.64**	.57**	—	-.02
学習意欲	-.41*	-.35	-.39*	-.26	.11	-.23	-.36	-.31	—

* $p < .05$ ** $p < .01$

右上：男子 左下：女子

(3) 学習意欲への影響

ダンス授業のストレスの8つの下位尺度得点が、学習意欲に与える影響を検討するために、重回帰分析を行った。表13、表14は、その結果を示したものである。また、重回帰分析に基づくパス図を図3、4に示した。

表13 重回帰分析結果：男女込み

	(n=96)
	男女
	β
効力感の欠如	-.22
生理的な不調	-.22
動機づけ困難な運動課題	-.34*
教師の不適切な言動	-.17
実技時間の短縮	.66***
他者のふまじめ	-.39*
体育以外の不安	.11
他者からの中傷	.27
R^2	.34**

* $p < .05$ ** $p < .01$ *** $p < .001$
 β 標準偏回帰係数

表14 重回帰分析結果：男女別

	(n=96)	
	男子	女子
	β	β
効力感の欠如	-.24	-.39
生理的な不調	.05	-.35
動機づけ困難な運動課題	-.61*	-.08
教師の不適切な言動	.05	-.49
実技時間の短縮	.90*	.80**
他者のふまじめ	-.75*	-.31
体育以外の不安	-.02	.06
他者からの中傷	.24	.44
R^2	.38*	.44*

* $p < .05$ ** $p < .01$
 β 標準偏回帰係数

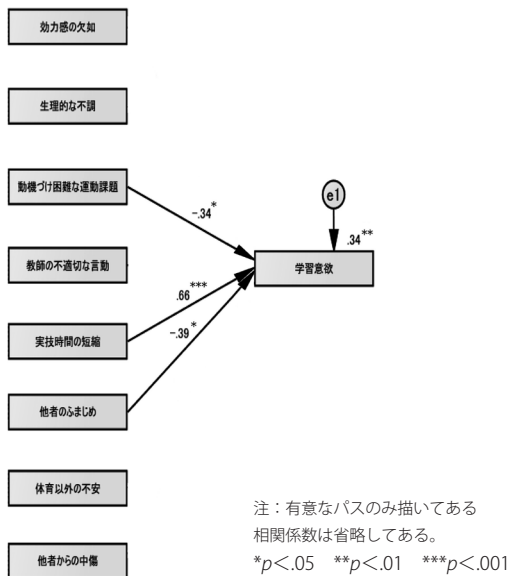


図3 男女込みのパス解析結果

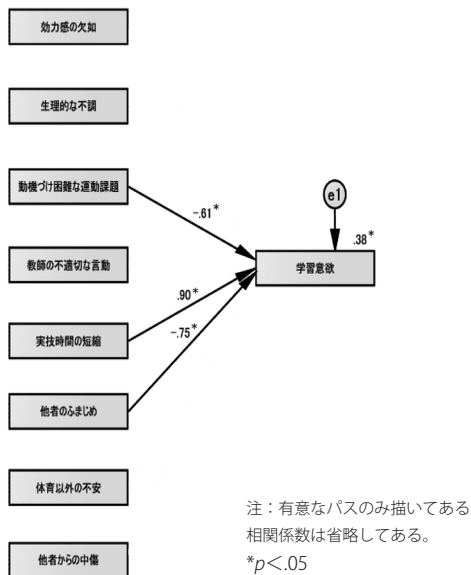


図4 男女別のパス解析結果：男子

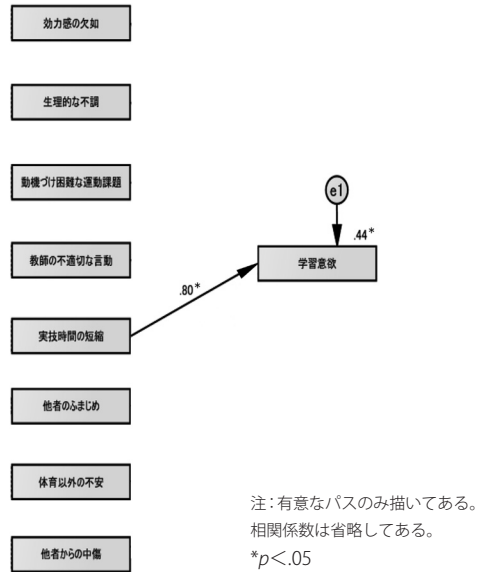


図4 男女別のパス解析結果：女子

男女込みで見ると、「動機づけ困難な運動課題」、「実技時間の短縮」、「他者のふまじめ」から意欲に対する標準偏回帰係数が有意であった。男女別にみると、男子では「動機づけ困難な運動課題」、「実技時間の短縮」、「他者のふまじめ」から学習意欲に対する標準偏回帰係数が有意であったが、女子では、「実技時間の短縮」から学習意欲に対する標準偏回帰係数のみ有意であった。

この結果から、男女ともに、「実技時間の短縮」は意欲に対し直接的な影響を及ぼすことが窺えた。その一方で、意外にも「効力感の欠如」「他者の中傷」などは直接影響しないことが窺えた。また、男子では、「動機づけ困難な運動課題」、「他者のふまじめ」が学習意欲に対して直接的な影響を及ぼすことが示唆された。

項目別に見ていくと、男女ともに「話や見ている時間が長い」「実技の時間が短く踊る量が少ない」といったことで学習意欲を減退させている。

更に、男子は、「課題が難しすぎる」ことで「恥ずかしい、失敗する、嫌だ」といったネガティブな気持ちになることが学習意欲を減退させるとともに、周りの人が「まじめに取り組まない」ことが不満要因となり、学習意欲を減退させることが考えられるので、授業構成においては課題の設定やグループ構成に配慮することが必要である。

4. 結論

本研究は、新指導要領で導入された「現代的なリズムのダンス」の学習経験がない者の学習意欲に着目し、学習成果との関連を検討するとともに、どのような動機あるいはストレスが彼らのダンスの学習意欲に影響を与えているのかを検討することを目的とした。分析の結果、以下の5点を結論として得た。

1. 実技テストの成績と関連するのは、内容関与的動機づけの高さであった。学習意欲と学習意欲の伸びおよび学習中のストレスの高さは実技テストの成績と関連しない。
2. 学習意欲を高める要因は、ダンスの学習内容であり、仲間関係や実利といった学習内容と分離した動機は学習意欲に対して直接的な影響を与えない。
3. 男女ともに、実技時間の短縮が学習意欲を減退させるので、授業構成においては十分な実技時間を確保することが必要である。
4. 女子の学習意欲を高めるためには、実利的な学習効果を謳うことが効果的である。
5. 男子では、動機づけ困難な運動課題、他者のふまじめさが学習意欲を減退させるので、課題の設定やグループ構成に配慮することが必要である。

本研究での成果は、男女共修のダンス授業を展開する上で、今後、学習者が意欲的に取り組むダンス授業づくりのための基礎的資料と成り得るも

のであり、ダンスの実際の指導場面における貴重な示唆を提供するものである。

引用・参考文献

1. 畑野裕子（1988）ダンスの授業の好悪を規定する楽しさの要因の検討－中学生を対象として－. 兵庫教育大学研究紀要 5：pp.133－143.
2. 畑野裕子（1987a）ダンスの授業の楽しさに関する因子分析の試み. 舞踊学10：pp.12－13.
3. 畑野裕子（1987b）ダンスの授業の楽しさに関する因子分析的研究－高校生を対象として－. 舞踊学11：pp.29－31.
4. 速水俊彦, 1998, 自己形成の心理－自律的動機づけ. 金子書房
5. 林信恵・北島順子（2000）ダンスの授業における楽しさを規定する要因－生徒と教師の認知－. 大阪体育大学紀要31：pp.77－86.
6. 東原芳美（1991）男女共修におけるダンス授業に関する研究－ダンスにおける楽しさの変容を中心に－. 筑波大学体育科学系紀要14：pp.85－97.
7. 市川伸一（2001）学ぶ意欲の心理学. PHP研究所.
8. 金井敏博（1999）組織経営. 日経文庫.
9. 松本富子・高橋健夫・長谷川悦示（1996）子どもからみたダンス授業評価の構造－中学校創作ダンス授業に対する評価の分析から－. スポーツ教育学研究16(1)：pp.47－54.
10. 中村恭子・武井正子・浦井孝夫（2002）高等学校におけるダンス授業のカリキュラムに関する研究－実態調査に基づいて－. 順天堂スポーツ健康科学研究 6, 94－105.
11. 中村恭子・浦井孝夫（2006）ダンス学習内容と楽しさの検討－創作ダンスと現代的なリズムのダンスの比較－. 順天堂大学スポーツ健康科学研究10, 65－70.
12. 中村恭子（2009）中学校ダンスの男女必修化の課題－中学校教員を対象とした調査に基づいて－. 順天堂スポーツ健康科学研究第1巻第1号. pp.27－39.
13. 中村恭子（2010）中学校体育全領域必修化に伴うダンス授業の変容と展望. 順天堂スポーツ健康科学研究第1巻第4号. p.484.
14. 西村怜子・磯島紘子・藤原芳江・荒木恵美子・井上邦江（1986）表現ダンス学習指導の体系化を目指して. 遊戯社.
15. 佐藤臣彦（1993）身体教育を哲学する. 北樹出版.
16. 徳永幹雄編（1999）体育・スポーツの心理尺度. 大修館書店.
17. 内山須美子（2006）ダンス学習への動機づけに関する基礎的研究. 白鷗大学経営論集30(1). 19－41.
18. 内山須美子・小島理永（2006）ダンスの授業におけるフロー体験－ストリートダンスを教材として－. 埼玉スポーツ科学 2, 39－5.
19. 内山須美子（2006）ダンスのフロー経験に関する基礎的研究－ストリートダンスを教材とした一年間の授業実践のFSSによる分析－. 白鷗女子短大論集30(1).
20. 内山須美子・舩田真理子（2010）ヒップホップダンス授業受講生における動機づけの検討：フロー感覚に着目した類型化の試み. 白鷗大学教育学部論集 4 (1).

資料 1

【単 元 名】現代的なリズムのダンス

【指導学年】第 1 学年

【単元目標】

- (1) 自己の能力に適した課題を選択し、課題解決に向けて、意欲的・計画的に取り組むことができる。
- (2) 適切な課題に基づき、安全に配慮し、資料の活用や学習の進め方を工夫して課題解決を図ることができる。
- (3) 自己の能力に適した課題を解決し、能力等に応じた技能を身につけ、ダンスの楽しさや喜びを味わうことができる。
- (4) ダンスの特性や意義を理解し、練習の仕方を工夫して安全に運動することができる。

単 元 指 導 計 画

時間	ねらい 学習内容	評価の重点 関心 思考 技術 知識	具体的評価基準	おおむね満足(B)	教師の支援と留意事項	評価の方法
1	1. オリエンテーション ・学習内容の説明 ・学習の目標を知る ・学習の進め方を知る ・グループ編成	○	○ ・自分の能力にあった課題に対して意欲的・計画的に取り組むことができる。 ・技術やコンピネーションの発展性や系統性がわかり、練習計画が立てられる。	○ ・自分の能力にあった課題に対して意欲的に取り組もうとしている。 ・ダンスの楽しさや学習の進め方がわかる。	・学習内容を確認及び把握させる。 ・見通しを持った学習計画が立てられるようにする。 ・安全な練習の必要性、方法を理解させる。	活動の観察 学習ノート
2 ～ 7	2. 技術とコンピネーションの習得	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ・仲間と協力して教えあったりし、進んで授業に参加している。 ・学習ノートを活用することができる。 ・課題に対する練習の仕方がわかる。 ・課題に対する練習の仕方を工夫することができる。 ・難しい技術やコンピネーションに挑戦し、努力することができる。	○ ・仲間と協力して楽しく授業に参加している。 ・学習ノートを活用することができる。 ・課題に対する練習の仕方がわかる。 ・新しい技術やコンピネーションに挑戦しようとしている。	・自分の能力に応じてか愛を設定することができるようにする。 ・学習活動が円滑に進められるように、適切なリーダーの選出と役割分担させる。 ・能力や体力を配慮し、できる限りの努力をさせる。 ・3回の授業毎に技能テストを行い、自分の成果を確認させる。	活動の観察 学習ノート
8 ～ 10	3. 習得した技術とコンピネーションを基にした創作	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ・より美しい作品になるように、進んで意図を出したりして、積極的に授業に参加している。 ・学習ノートを活用することができる。 ・課題に対する練習の仕方がわかる。 ・課題に対する練習の仕方を工夫することができる。 ・難しい技術やコンピネーションに挑戦し、努力することができる。	○ ・より美しい作品になるように、仲間と協力的に授業に参加している。 ・学習ノートを活用することができる。 ・課題に対する練習の仕方がわかる。 ・新しい技術やコンピネーションに挑戦しようとしている。	・互いの技能をチェックし、問題点を指摘しあって課題解決を図らせる。 ・各グループ間を巡回し、課題解決に向けて個人・リーダー・グループに適切な指導を心がける。	活動の観察 学習ノート
11 ～ 14	4. 発表会に向けての練習	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ・発表会に向けてより美しい作品になるように工夫することができる。 ・作品のよさはの確かめ方がわかり、その方法を友達に教えることができる。	○ ・発表会に向けて練習することができる。 ・作品のよさはの確かめ方がわかる。	・制作した作品のよさはの確かめ方について問題点を指摘しあって課題解決を図らせる。 ・各グループ間を巡回し、課題解決に向けて個人・リーダー・グループに適切な指導を心がける。	活動の観察 学習ノート
15	5. 発表会	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ・お互いの演技を見て演技の評価やアドバイスができる。 ・自分の能力に合った課題に対して達成の喜びを味わうことができる。	○ ・お互いの演技を見て演技の評価ができる。 ・自分の能力に合った課題に対して達成の喜びを味わうことしている。	・発表会の意義を理解させ、励ましあい、できる範囲で精一杯行わせる。 ・毎時学習ノートに反省や次の時間の目標などを記入させる。	活動の観察 学習ノート

資料 2

授業の展開：2時間目／15時間

授業の構成

具体活動	学習活動	生徒への支援	評価	時間	準備
<ul style="list-style-type: none"> ・本時のねらいや学習内容を理解できる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 挨拶・健康観察をする。 2. 準備運動をする。 3. 本時のねらいと課題の確認をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康状態を把握し、見学者への助言をする。 ・身体各部分の、最低でも15秒間ずつストレッチをするよう助言する。 ・本時の見通しを立て、練習方法の確認ができるよう助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を見つけた授業の見直しを持ったか。(関心・意欲・態度) 	10分	学習ノート
<ul style="list-style-type: none"> ・習得した技術が安定した動作でできる。 ・練習方法や場を工夫できる。 	<ol style="list-style-type: none"> 4. 本時のコンピネーションで使用する技術を学ぶ。 ・手本を見て5～6回ずつ繰り返し確認する。 ・グループ内で互いにアドバイスしながら行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆっくりでもいいので丁寧に言うことを助言する。 ※学習ノートを参考にしながらアドバイスができるよう助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の活用や学習の進め方を工夫することできたか。(思考・判断) ・課題を発見し、課題解決に向けて取り組めたか。(思考・判断) ・互いに教えあうことによって技術を理解することできたか。(技能) 	15分	
<ul style="list-style-type: none"> ・習得したコンピネーションが安定してできる。 ・新たな課題を解決できる。 	<ol style="list-style-type: none"> 5. 本時で使用する音楽にあわせたコンピネーションを学ぶ。 ・手本を見て5～6回ずつ繰り返し確認する。 ・グループ内で互いにアドバイスしながら行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆっくりでもいいので丁寧に言うことを助言する。 ※学習ノートを参考にしながらアドバイスができるよう助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の活用や学習の進め方を工夫することできたか。(思考・判断) ・課題を発見し、課題解決に向けて取り組めたか。(思考・判断) ・互いに教えあうことによってコンピネーションを理解することできたか。(技能) 	30分	
<ul style="list-style-type: none"> ・習得したコンピネーションが音楽に合わせてできる。 ・新たな課題を解決できる。 	<ol style="list-style-type: none"> 6. 音楽にあわせて踊ることを習得する。 ・自分達の能力に合わせて課題を設定して、練習を行う。 ・グループ内でアドバイスしながら行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆっくりでもいいのでグループ内のできばえに合わせて徐々に曲のスピードを上げていくよう助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を発見し、課題解決に向けて取り組めたか。(思考・判断) ・互いに教えあうことによって音楽に合わせることできたか。(技能) 	15分	音源：CD
<ul style="list-style-type: none"> ・恥ずかしがらずに発表できる。 	<ol style="list-style-type: none"> 7. 発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分達の能力に合わせてスピードで発表するよう助言する。 ・恥ずかしがらずに、精一杯行うよう助言する。 ・発表時に他の班に観てもらいたいポイントをグループ内で話し合っておくよう助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・恥ずかしがらずに精一杯発表できたか。(関心・意欲・態度) ・本時の教材である技能やコンピネーションは適切に習得されたか。(技能) 	10分	音源：CD
<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習を反省し、次時の課題を発見できる。 	<ol style="list-style-type: none"> 8. 本時の反省と評価を行い、次時への課題を発見する。 9. 後片付けをする。 10. 健康観察・挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ※本時の活動で良かった点や頑張った点などを認め合い、次時への意欲を持たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の活動について反省し、次時への目標を持ったか。(関心・意欲・態度) 	10分	学習ノート

授業の展開：3時間目／15時間

具体活動	学習活動	生徒への支援	評価	時間	準備
<ul style="list-style-type: none"> 本時のねらいや学習内容を理解できる。 	<ol style="list-style-type: none"> 挨拶・健康観察をする。 準備運動をする。 本時のねらいと課題の確認をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 健康状態を把握し、見学者への助言をする。 身体各部分の、最低でも15秒間ずつストレッチをするよう助言する。 本時の見通しを立て、練習方法の確認ができるよう助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題を見つけた授業の見通しを持ったか。(関心・意欲・態度) 	10分	学習ノート
<ul style="list-style-type: none"> 前時に習得した技術と習得した技術が安定した動作でできる。 練習方法や場を工夫できる。 	<ol style="list-style-type: none"> 前時の復習を行う。 前回の技術とコンビネーションを2～3回ずつ繰り返して確認する。 本時のコンビネーションで使用する技術を書く。 手本を見て5～6回ずつ繰り返して確認する。 グループ内で互いにアドバイスしながら行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ゆっくりでもいいので丁寧にいうことを助言する。 ※学習ノートを参考にしながらアドバイスができるよう助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料の活用や学習の進め方を工夫することができたか。(思考・判断) 課題を発見し、課題解決に向けて取り組めたか。(思考・判断) 互いに教えることによって技術を理解することができたか。(技能) 	15分	
<ul style="list-style-type: none"> 習得したコンビネーションが安定してできる。 新たな課題を解決できる。 	<ol style="list-style-type: none"> 本時で使用する技術とコンビネーションを書く。 手本を見て5～6回ずつ繰り返して確認する。 グループ内で互いにアドバイスしながら行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ゆっくりでもいいので丁寧にいうことを助言する。 ※学習ノートを参考にしながらアドバイスができるよう助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料の活用や学習の進め方を工夫することができたか。(思考・判断) 課題を発見し、課題解決に向けて取り組めたか。(思考・判断) 互いに教えることによってコンビネーションを理解することができたか。(技能) 	30分	
<ul style="list-style-type: none"> 習得したコンビネーションが音楽に合わせてできる。 新たな課題を解決できる。 	<ol style="list-style-type: none"> 音楽にあわせて踊ることを習得する。 自分達の能力に合わせて課題を設定して、練習を行う。 グループ内でアドバイスしながら行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ゆっくりでもいいのでグループ内のできばえに合わせて徐々に曲のスピードを上げていくよう助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題を発見し、課題解決に向けて取り組めたか。(思考・判断) 互いに教えることによって音楽に合わせて行うことができたか。(技能) 	15分	音源：CD
<ul style="list-style-type: none"> 取っかかりがらずに発表できる。 	<ol style="list-style-type: none"> 発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分達の能力に合わせてスピードで発表するよう助言する。 取っかかりがらずに、精一杯行うよう助言する。 発表時に他の班に観てもらいたいポイントをグループ内で話し合っておくよう助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> 取っかかりがらずに精一杯発表できたか。(関心・意欲・態度) 本時の教材である技能やコンビネーションは適切に習得されたか。(技能) 	10分	音源：CD
<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習を反省し、次時の課題を発見できる。 	<ol style="list-style-type: none"> 本時の反省と評価を行い、次時への課題を発見する。 後片付けをする。 健康観察・挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ※本時の活動で良かった点や頑張った点などを認め合い、次時への意欲を持たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の活動について反省し、次時への目標を持ったか。(関心・意欲・態度) 	10分	学習ノート

「現代的なりズムのダンス」の学習意欲に関する研究

授業の展開：4時間目／15時間

具体活動	学習活動	生徒への支援	評価	時間	準備
<ul style="list-style-type: none"> 本時のねらいや学習内容を理解できる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 挨拶・健康観察をする。 2. 準備運動をする。 3. 本時のねらいと課題の確認をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 健康状態を把握し、見学者への助言をする。 身体各部分を、最低でも15秒間ずつストレッチをするよう助言する。 本時の見通しを立て、練習方法の確認ができるよう助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題を見つけた授業の見通しを持ったか。(関心・意欲・態度) 	10分	学習ノート
<ul style="list-style-type: none"> 前時に習得した技術と習得した技術が安定した動作でできる。 練習方法や場を工夫できる。 	<ol style="list-style-type: none"> 4. 前時の復習を行う。 5. 前回の技術とコンビネーションを2～3回ずつ繰り返して確認する。 6. 本時のコンビネーションで使用する技術を確認する。 7. 手本を見て5～6回ずつ繰り返して確認する。 8. グループ内で互いにアドバイスしながら行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ゆっくりでもいいので丁寧にいうことを助言する。 ※学習ノートを参考にしながらアドバイスができるよう助言する。 手本を見て5～6回ずつ繰り返して確認する。 グループ内で互いにアドバイスしながら行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料の活用や学習の進め方を工夫することできたか。(思考・判断) 課題を発見し、課題解決に向けて取り組めたか。(思考・判断) 互いに教えることによって技術を理解することができたか。(技能) 	15分	
<ul style="list-style-type: none"> 習得したコンビネーションが安定してできる。 新たな課題を解決できる。 	<ol style="list-style-type: none"> 6. 本時で使用する音楽にあわせてコンビネーションを学ぶ。 7. 手本を見て5～6回ずつ繰り返して確認する。 8. グループ内で互いにアドバイスしながら行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ゆっくりでもいいので丁寧にいうことを助言する。 ※学習ノートを参考にしながらアドバイスができるよう助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料の活用や学習の進め方を工夫することできたか。(思考・判断) 課題を発見し、課題解決に向けて取り組めたか。(思考・判断) 互いに教えることによってコンビネーションを理解することができたか。(技能) 	30分	
<ul style="list-style-type: none"> 習得したコンビネーションが音楽に合わせてできる。 新たな課題を解決できる。 	<ol style="list-style-type: none"> 7. 音楽にあわせて踊ることを習得する。 8. 自分の能力に合わせて課題を設定して、練習を行う。 9. グループ内でアドバイスしながら行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ゆっくりでもいいのでグループ内の出来栄に合わせて徐々に曲のスピードを上げていくよう助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題を発見し、課題解決に向けて取り組めたか。(思考・判断) 互いに教えることによって音楽に合わせて練習することができたか。(技能) 	15分	音源：CD
<ul style="list-style-type: none"> 恥ずかしがらずに発表できる。 	<ol style="list-style-type: none"> 8. 発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分達の能力に合わせてスピードで発表するよう助言する。 恥ずかしがらずに、精一杯行うよう助言する。 発表時に他の班に観てもらいたいポイントをグループ内で話し合っておくよう助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> 恥ずかしがらずに精一杯発表できたか。(関心・意欲・態度) 本時の教材である技能やコンビネーションは適切に習得されたか。(技能) 	10分	音源：CD
<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習を反省し、次時の課題を発見できる。 	<ol style="list-style-type: none"> 9. 本時の反省と評価を行い、次時の課題を確認する。 10. 後片付けをする。 11. 健康観察・挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ※本時の活動で良かった点や頑張った点などを認め合い、次時への意欲を持たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の活動について反省し、次時への目標を持ったか。(関心・意欲・態度) 	10分	学習ノート

資料 3 授業で使った技術とコンピネーション

2時間目 / 15時間

○使った技術	<ul style="list-style-type: none"> ・トゥエル ・ノック ・ロック ・ポイント ・スクーピードゥ
○使ったコンピネーション	<ol style="list-style-type: none"> 1. トゥエル→ノック→トゥエル→ロック→ポイント×3→トゥエル→ロック 2. トゥエル→ロック→ポイント→ポイント→トゥエル→ロック→スクーピードゥ

3時間目 / 15時間

○使った技術	<ul style="list-style-type: none"> ・シェイクハンド ・クラップ(前・横・上・背面) ・クロスハンド
○使ったコンピネーション	<ol style="list-style-type: none"> 1. トゥエル→シェイクハンド→立ち位置入れ替え→クラップ→横クラップ→上クラップ→背面クラップ×2→トゥエル→ポイント 2. クロスハンド×2→ステップ→踏み替え→クロス

4時間目 / 15時間

○使った技術	<ul style="list-style-type: none"> ・スキーター ・ゲットファンシー ・キック ・シルバーダラー
○使ったコンピネーション	<ol style="list-style-type: none"> 1. スキーター→ゲットファンシー→スキーター→スクーピードゥ 2. トゥエル→キック→トゥエル→シルバーダラー